

焼津駅前通りデザインガイドライン

【概要版】

■背景と目的

現在、焼津駅駅舎・駅前広場の再整備や周辺における再開発の検討が進んでいます。これらにあわせて駅前通りも、新しく生まれ変わるチャンスを迎えました。

このタイミングを契機とし、地権者や商店主、行政など、駅前通りに関わる全ての人々が一丸となり、魅力あふれる通りをつくるための指針として、「焼津駅前通りデザインガイドライン」（以下、「本ガイドライン」と記述）を策定しました。

■ねらい

- 本ガイドラインは、20年後（2045年度）の駅前通りを魅力的な通りとしていくために、将来像を設定し、方策を整理するものです。
- 本ガイドラインで掲げる「駅前通りが目指す姿」の実現に向け、「将来まちづくりの5つの方針」を共有し、ハード（街並みづくりや道路空間づくり）・ソフト（コミュニティ・活動・体制・仕組みづくり等）の両輪で進めていくものです。
- 主にハードの取組として、「ストリートデザインの3つの方針」をもとに、デザイン指針（裏面）を作成しました。この指針を、地権者や商店主、行政など、駅前通りに関わる全ての人々が共有し、配慮していくことによって、下記のような将来イメージの実現を目指します。（ソフトの取組については本編をご覧ください。）



みんなで目指す 駅前通りの将来イメージ

個店の魅力が光る 親しみと温かさのある街並み

樹形の美しい緑が際立ち、通りに潤いが感じられる

明るい雰囲気のあるアーケード

店主との会話を楽しめる店

気軽に座れる常設ベンチ



可動式のポラードやフルフラット化等により、道路空間を自由に活用できる

シェアードスペース広場のような居心地のよい空間

だれもが安心でき多様な交流が生まれる道路空間

駅前通りの将来像

< 駅前通りが目指す姿 >

人情味があふれ、焼津愛が育まれる“みんなの居場所”

～ふらっと立ち寄りたくなる えきまち・みなとまちストリート～

将来まちづくりの5つの方針

「駅前通りが目指す姿」を実現するためのまちづくりの基本的な考え方

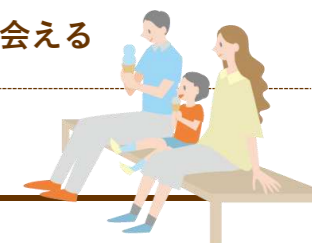
誰でも思い思いに過ごし
多様な交流が生まれる

子どもが安心して楽しく過ごせる

商店街の懐かしさと新しさが融合し
魅力があふれる

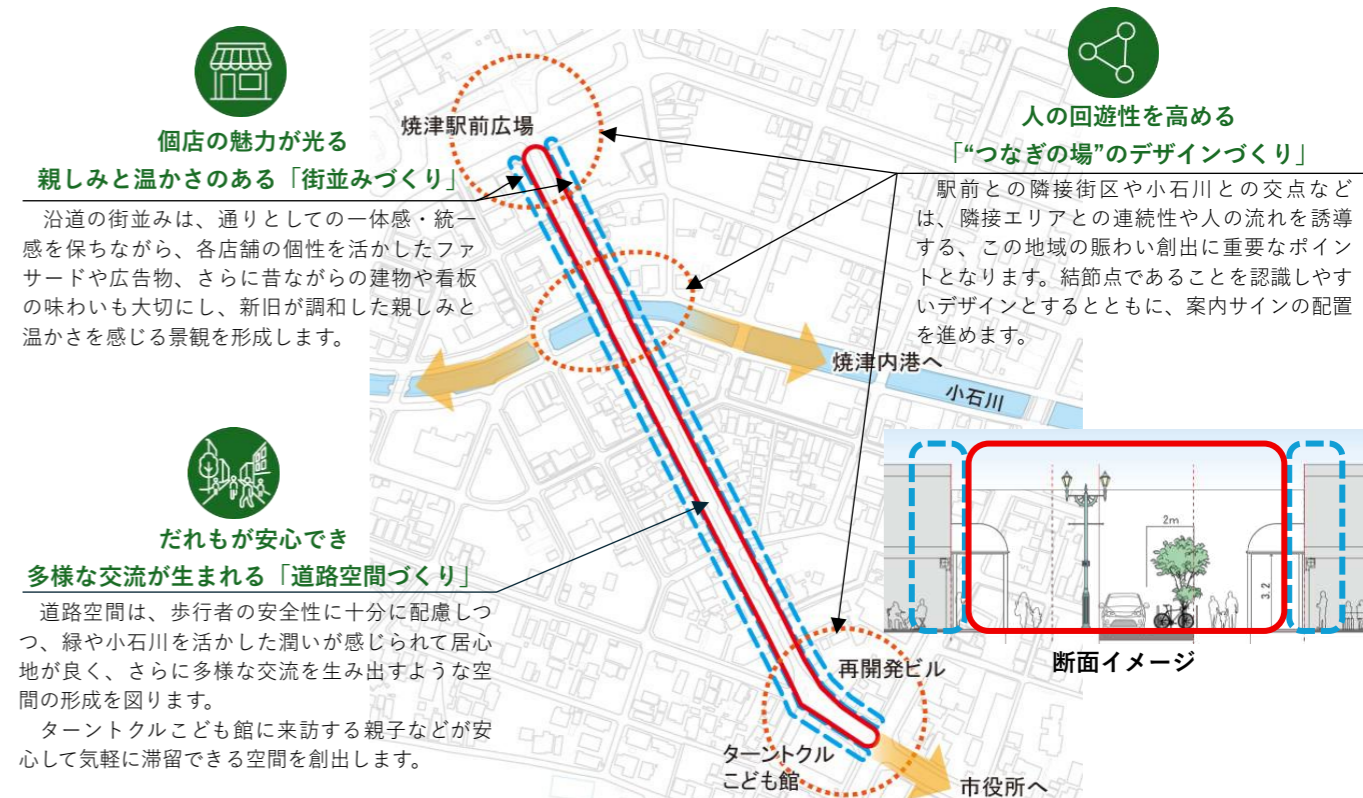
焼津らしさに出会える

焼津駅や港との連続性を活かして
にぎわいがある



ストリートデザインの3つの方針

「将来のまちづくりの5つの方針」を基に将来像に相応しい街並みや道路空間を創出する考え方

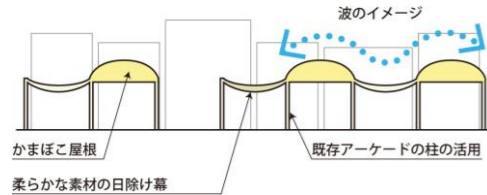


個店の魅力が光る 親しみと温かさのある「街並みづくり」

商店街としての街並みの維持
通りの統一感・一体感を創出する

■アーケード

- 重々しくない明るくシンプルなデザインを基本とします。



■建物用途

- 1階部分は、歩行者が「店が並んでいる」ことを感じられるよう、商業、業務等の用途に努めます。

■店舗の間口

- 駅前通りの特徴を維持するため、同程度の店舗の間口を連続して配置するよう努めます。

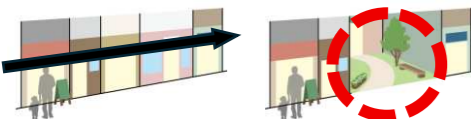


■高さ

- 建物の高さは周辺の街並みとの調和に配慮し、過度に高くないよう配慮します。

■壁面位置

- 隣接する既存の建物と壁面ラインを揃えることで、通りの連続性や統一感を維持します。
- 通りから壁面を大きく後退させる場合は、後退したスペースにベンチやテーブルの配置、積極的な緑化等により、にぎわいや潤いをもたらす「場」として活用します。



■壁面の色彩

- 主体となる壁色は、空や周囲の景観と調和しやすい、自然でやわらかな色合いの白や明度の高いベージュ・グレー・茶系の使用に努めます。
- 1階部分の壁面については、店舗の個性を生かしつつ、周囲の景観に調和する色彩とし、高彩度の色を広範囲に使用しないよう努めます。

個々の店舗の魅力向上
親しみと温かさ感じられる

■壁面デザイン

- 道路に面する外壁は、窓のない壁面や同じデザインの壁面が長く連続するなど単調にならないよう工夫します。

■壁面素材

- 過度な光沢のある金属板・鏡面仕上げは避け、自然の質感が得られる塗り壁やタイル、木材等の使用に努めます。

■ディスプレイ

- 季節感・地域性・店舗の個性の表現に努めます。



■シャッター

- 夜間や閉店時でも明るく楽しく、安全な街にするためシャッターアートや店内が見えるシースルーシャッター等を採用し、適切な照明演出に努めます。

■建築設備

- 空調室外機や電気・ガスメーター等は、通りから目立たない位置に設置し、露出する場合は外壁と調和した意匠の囲い等により目隠しを行います。

■照明

- 温かみのある適度な照明を設け、安全でやわらかい夜間景観の形成に努めます。

■花・みどり

- 店舗前には、季節感や潤いを感じられる緑化を行います。



■屋外広告物

- 自家広告物のみとするとともに、街並みと調和する大きさや数とし、質の高いデザインとなるよう心がけます。



滞留や回遊性の向上
通りに奥行き感、立体感を出す

■沿道のオープンスペース

- 沿道と繋がる路地などの小空間を積極的に設け、休息・滞留・回遊を誘発するテラスや縁側の空間を組み合わせることで、誰もが、居心地の良い空間を創出します。



だれもが安心でき多様な交流が生まれる「道路空間づくり」

■道路構造

- シェアードスペース※の考え方に基づき、フルフラット化等により歩行空間をできる限り広く確保することで、来訪者の回遊を促し、誰もが安全に歩ける道路を目指します。
※段差や白線、信号機、標識がほとんどなく、車、自転車、歩行者が、同じ空間を共有していただく考え方やデザイン手法

■滞留空間・ストリートファニチャー

- 歩道上には、沿道地権者の意向を踏まえて、ベンチやカウンターなどの常設のストリートファニチャーや仮設のテーブルセット等を適切に設置します。



■夜間景観の創出

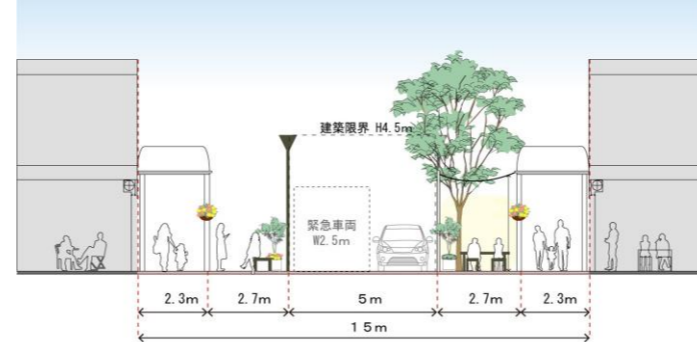
- アーケード照明および街路灯には、不快なまぶしさのない光源を使用し、温かみを感じられる安全で魅力的な夜間景観を演出します。

■緑化

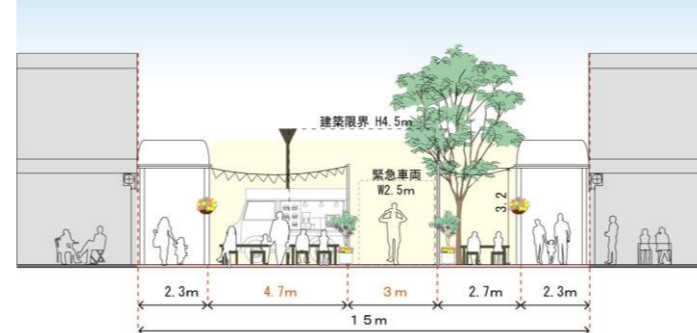
- 緑を実感できる潤いある駅前通りとして、来訪者が快適に往来できるよう緑陰をつくるために、歩道部には中高木の街路樹を配置します。
- 街路樹は、枝葉が繊細で、空間に軽快な印象を与える樹木とします。



通常のイメージ



歩行者天国のイメージ



人の回遊性を高める 「つなぎの場」のデザインづくり

- “つなぎの場”となる3箇所において、将来イメージをスケッチで提示し、建物や公共空間のデザインや使い方を示します。
- “つなぎの場”においては、以下の内容に極力配慮して整備を進めることが望まれます。

■駅前広場との連続性やにぎわいを誘導するデザイン

- 駅前通りの入口として相応しい、緑があふれ華やかさのある広場のような道路空間とします。
- 駅前広場と連続するデザインとなるよう、同じ舗装材の使用や、連続性のある緑化を施します。
- 歩行空間には、テーブルやベンチの配置ができ、出店ができるような空間とします。



■小石川を活かし、内港に導くデザイン

- めがね橋上は、シンボル性を高めるよう、サークル状の上屋を備えた橋上広場を創出します。
- めがね橋上から小石川に向けて小広場を設けることにより、河川への透過性と親水性を高めつつ広がりのある橋上広場を形成します。



■ターントクルこども館と再開発ビル周辺のデザイン

- ターントクルこども館と再開発ビル周辺は、みどりを活かした、ゆとりある広場のような道路空間を創出します。
- ターントクルこども館と再開発ビルの敷地内に設置するベンチ等のストリートファニチャーは、デザインの統一を図ることにより、一体感を創出します。
- 車道と歩道については、互いに調和したデザインによる美装化を図り、広場のような空間を創出します。

